



# みなみの風



日常のふれあい

## 教室配置を変更して

今年度より、子どもたちの「ふれあいを増やしたい」という願いに応える形で、異学年が隣り合う教室配置に取り組んでいます。1年生と6年生、2年生と4年生、3年生と5年生をペアの学年とし、教室だけでなく職員室もペアの学年が隣接する配置とし、ペアの学年で子どもたちを見守り、支援していく体制を整えました。

5月に職員でこの配置について検討しました。次のような意見が出されました。

- 子ども同士の関わりが増えた。子ども自身がそのことを実感している。
- 6年生の1年生と関わっているときの表情がとてもよい。みんなに居場所がある。
- 6年生の言葉「へたできなくなった!」高学年としての自覚、高まりを感じる。
- 1年生にとっては6年生が隣りにいることで学校生活への慣れや適応が早かった。
- 4年生が2年生と一緒にドッジボールで遊んでいる。上の学年が良いお手本。
- 図工の作品を見合っている。互いに刺激になっている。



保護者の皆様にも6月の学校公開日にアンケートを取らせていただきました。

Q) 異なる学年が隣り合う教室配置によって、子どもたちの交流や学びの広がり、深まりがみられる。

A) 回答 177件

よくあてはまる	20%	ややあてはまる	40%	合計	60%
あまりあてはまらない	33%	全くあてはまらない	7%	合計	40%

児童にも7月にアンケートを行い、この教室配置について聞いてみました。

Q) これまでよりも違う学年との交流が増えた

A) 回答 649件

よくあてはまる	53%	ややあてはまる	35%	合計	88%
あまりあてはまらない	8%	全くあてはまらない	4%	合計	12%

Q) 隣のクラスのやっていることを気にしている

A) 回答 649件

よくあてはまる	39%	ややあてはまる	32%	合計	71%
あまりあてはまらない	24%	全くあてはまらない	5%	合計	29%

Q) 交流もっと増やしたい

A) 回答 649件

よくあてはまる	54%	ややあてはまる	30%	合計	84%
あまりあてはまらない	11%	全くあてはまらない	5%	合計	16%

アンケートより、児童はこの教室配置でふれあいが増え、概ね賛成という結果でした。自由記述では、ふれあいや交流が増え、違う学年の友達が増えたこと、下学年は優しくしてもらい、安心できること、上学年は頼りにされ、見本となるべき行動をとるよう心がけていること、などが伺えました。また元の配置に戻してほしいと考える児童の主たる理由は、同学年の友達と教室が離れたことでふれあえなくなったり、遊ぶ約束をとるために行きづらくなったりしたこと、授業に集中しづらいこと、などのようでした。

児童や保護者の皆様の思いを職員間で共有し、今後は次のことを充実させていきます。

- 同学年での交流の充実(集会、学習、イベント、総合的な学習、帰りの時間を揃えるなど)
- この教室配置の良さやエピソードを発信する(学校・学級だより、代表委員会など)
- 環境を整え、いかす(交流スペース、オープンスペース、多目的ホールなど)



## 下水道教室 4年生 7/11(火)

4年生が社会科の学習で、神奈川県下水道公社の武藤さん、北村さんから「なぜ下水道は必要なのか」「下水はどのようにしてきれいになるのか」などについて、お話を伺いました。

子どもたちは、開成町には下水処理場はなく、小田原の扇町水再生センターで下水が14時間かけてきれいになっていることを知りました。また、下水道の働き(川や海を汚さない・大雨でも安心・快適な暮らし)を理解するとともに、処理場で微生物が水をきれいにしてくれていることを知り、驚いていました。実際に微生物(コレラ、エビシテリリス、くまむしなど)が汚れを食べている様子も見せていただき、「微生物ってすごいな!」と感心していました。

下水管がつかまらないように水洗トイレには水にとける物以外は流さないこと、台所で油や野菜のくずなどは流さないことなども教わり、実践しようという思いを強く持ちました。



## 集会(図書委員会) 全学年 7/4(火)

図書委員会の児童が中心となり、児童集会を実施しました。図書委員会の目標は「本の世界を広げよう～未知の本を見つける手伝いをしよう～」です。劇を通して読書の楽しさを伝えたり、お薦めの本の紹介を行ったりしました。

生き生きと発表する図書委員会児童の姿やそれを集中して静かに聞く全校児童の姿が素晴らしく、すてきな時間を共有できました。



## ふれあいタイム 全学年 7/6(木)

企画委員会の児童が中心となり、ふれあいタイムを行いました。長昼休みを使って、教室が隣り合うペアの学年・学級(例:1年1組と6年1組)で遊びました。上学年が考えた遊び(おにごっこ、ドッジボール、宝探し、ハンカチ落とし、震源地ゲームなど)を大いに楽しんでいます。「もっとやりたい。」「またやりたい。」などの声も聞こえてきました。



## 総合的な学習より

### 5年3組 「kaisei Food Project」

5年3組の子どもたちは、開成町を「食」をテーマに盛り上げていきたいと考えています。

そこで、開成町らしい定食やデザート、飲み物などを考えました。考えたメニューは「里芋の甘辛丼」「揚げ出し弥一芋」「弥一芋と枝豆のおにぎり」「快晴茶を使った抹茶スコーン」「佐野ファームのいちごを使ったパフェ」「あじさいソーダ」「あじさいティー」などです。

7月13日には、開成町飲食店組合の神田組合長さん、石井副組合長さんを教室にお招きし、自分たちの考えたメニューが実現可能か助言をいただきました。

少し工夫すればお店にだせるものがあるとの嬉しいお言葉や調理法についての具体的なアドバイスをいただきました。

今後はさらに皆で実現の可能性を高められるように実際に作ったり、改良したりしていき、再度助言をいただく予定です。



### 6年1組 「開成町新しく輝く」

開成町の現状や良い所を学ぶ中で、県内トップの人口増加率を喜びながらも「このまま人口が増え続けたら、今の住みややすさがなくなるのではないかと多くの子どもたちが心配になりました。

そこで、6月30日に町の取組みを聞きに役場に出かけ、町長さんや町の担当者の奥原さん、佐野さん、川崎さんより、街づくりに対する計画や思いなどを伺いました。そのなかで、人口増加への対応に関する心配は解消しました。同時に、今後の街づくりに自分たちも加わりたいとの思いをもちました。

そして、特段関心をもった「駅前通り線」(今後およそ10年かけて完成予定)に対して、どのようなものがあるというそう開成町が住みやすくなり、町の魅力が増すのかなど自分たちも考えて、提案していこうと思いがまとまりました。7月19日には町の担当者 奥原さんと川崎さんに説明していただきながら、建設予定地を巡る現地学習を行いました。

今後は、どのようなものが駅前通りの周辺にあるとよいか、開成町の特産や魅力などを再確認しながら、皆で考えていく予定です。

